

安全への提言

|||||

いったん立ち止まることの大切さ

さ とう かおる[†]
佐 藤 薫

近年の色々な企業の不祥事からわかるように、「安全・安心」を社会に提供できない企業は淘汰されていきます。特に、危険物、高压ガスを取り扱う企業は、環境問題も含めて住民へ迷惑をかけることは許されません。しかし、統計によると、危険物施設の事故件数は1994年から増加傾向にあります。

皆さん一人ひとり、安全はかけがえのないものであることを心の底から理解し、事故を発生させないようにつねに考え、行動していると思います。一方で、事故の原因を分析すると、「もう少し注意を払っていたら」、「当たり前のことが当たり前にできていれば」事故を防止できたであろう事例が多く見られるのも事実です。

事業所では1日に何千、何万の作業が行われています。そのうちのたった一つのうっかりミスや、不安全行動が取り返しのつかない事故に至った事例もあることを認識し、行動する必要があります。ここでは、「いったん立ち止まることの大切さ」についてお話をさせて頂き、安全への提言とさせていただきます。

うっかりミス、不安全行動の防止には何が必要でしょうか？ それは一つひとつの作業の再確認であり、日頃からわれわれが実施している確認作業の延長線上にあると思います。安全管理ほど日常生活における習慣、癖が影響する業務はないと思います。

例えば、施錠して家を出るという行動を想像して下さい。どのように施錠を確認しますか？ 指差し呼称で確認しますか？ それとも、手でノブを回して確認しますか？ 実際に確認してみると100%近く施錠されています。しかし、この確認動作をしなかったことで、外出後に不安を感じ、その日の仕事に打ち込めなかった経験のある方も多いのではないのでしょうか。

確認することは、日常の一連の流れを止めて「いったん立ち止まる」ことだと思います。私はこの「いったん立ち止まる」ことこそが「安全」の原点と考えます。人はこれまでの自分の経験と習慣から、無意識に連続した行動をとっています。日頃の生活も業務も一

連の流れのなかで進みます。いったん立ち止まることは一連の流れを止め、迅速な行動に水を差し、一見、業務の効率を阻害するよう見えるかも知れません。しかし、作業の一つひとつは「危険を含んだ行動」であることを忘れてはいけません。事故は複数の要因が重なって起こることを思えば、今までは運よく事故が起こらなかったかも知れません。いったん立ち止まり、確認することで、危険の存在に気付くことができます。そのことに気付けば、その場でリスク回避できるとともに、根本的な対応も講じることができます。

一連の流れのなかで、いったん立ち止まることを実行することは難しいことです。勇気が必要です。最初は強制的に実施したとしても、この立ち止まりが無意識の行動、習慣にならなければ継続できません。そのためには、各個人の努力に加えて、職場の協力が不可欠です。

例えば、手順書のない作業は実施しないことが基本ですが、過去の経験でうまくいった事例がある場合には、手順書がなくても危険作業を実施してしまうことも危惧されます。このときにいったん立ち止まり、安全な手順を再確認した上で再開することは、個人の努力だけでは高いハードルとなります。「いったん立ち止まり、危険源を排除したことを確認しないと居心地が悪い」と皆が思える職場の風土づくり、文化の醸成が必要です。

安全操業を維持継続するためには経営トップの思いが現場最先端まで確実に届き、理解され、行動することが必要です。いったん立ち止まり、確認するなど、当たり前のことを当たり前に行動することが安全操業の維持継続につながることを経営トップが明確に示し、職場の風土づくり、文化の醸成を推進することが重要です。

一人ひとりの自覚、職場の風土、会社の姿勢が三位一体となることが事故ゼロを達成できる近道だと確信しています。

いったん立ち止まって、確認よし！ ご安全に！

[†] コスモ石油（株）安全環境部：〒105-8528 東京都港区芝浦1-1-1 東芝ビル